

昭和52年9月1日発行

J.P.C

J. Percussion Center.

No.3

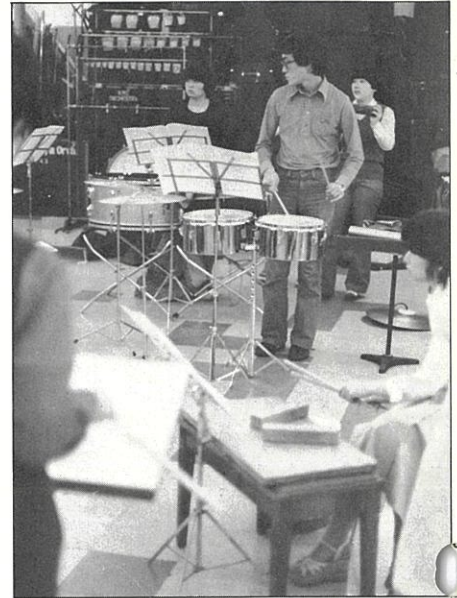
国立音楽大学の巻

〒190 東京都立川市柏町5-5-1
TEL 0425-36-0321

私は今、S鉄道を背にして立っている。前方には区画整理された墓地在り整然と並び、その周辺には学校や家々が並ぶ。ここは上水台と呼ばれる広大な丘陵地で、その一角に国立音楽大学がある。同大学の歴史をひもとくと、大正15年、東京高等音楽学院として創立され、昭和3年、第1期生を世に送り出している。昭和24年、教育法に基づき、中学校、高等学校を設立、翌25年、音楽大学、幼稚園、そして昭和28年に小学校を併設し、一貫教育の足場を確立したのである。

国立市にある校舎から、今私の立っている上水台校舎(立川市)に移ったのは昭和41年。43年には大学院音楽研究科も設置されている。現在、打楽器科には26名の学生が在学し、講師に網代景介先生、岡田知之先生、佐藤英彦先生を迎えている。また創作打楽器の才人、田口茂夫氏の力も見がせな

い。
国立音楽大学打楽器専攻科は、他の音楽大学に先がけ授業にアンサンブルを取り入れ、数々の初演を行なっている。今は亡き、小森宗太郎先生は、「総合指揮とアンサンブルのVitalizeは誰!」と題して次のようなお話をされている。



「昭和8年(壬子)みづのえねずみの超音波保持の岡田音澄(ねずみ)の音感覚にあづかって、血脈中にたぎる数千年の伝統の粋を、タクト一閃、全身心の視覚優先、視、聴、動感接触技術、Sol, fa ソルフエジュ視奏唱同時機発動の合奏感得技術のインスピレーションを発揮して、伝統の器物に生命づけ(Vitalize)を行ない・音楽芸術へのモーメントのモードを築く瞬間総力の発揮は今だ!!」と……。このような伝統の中、彼等のはのびのびとした学生生活をエンジョイしている。彼等のそばには常に楽器があり、研究している姿が目につく。民族楽器や創作打楽器が多いのは先生方のアドバイスだけではなく、学生達の打楽器に対する研究心と情熱であろう。

底抜けに明るく屈託のない彼等の会話に、私もいつしかとけ合う。プラス、オーケストラ、アンサンブル、そしてその他数々の演奏会に追われている彼等の中には、いつしかチームワークができ、独自の会話が生れるのであろう。時のたつのもわずれ話しがはずむ。とにかく愉快である。尽きない話の中、私は帰る準備をする。広い庭のあちこちに他の学生達の姿が見える。自然に親しみ、巣立って行く彼等には常に心のゆとりがあるように思えた。

国立音楽大学打楽器アンサンブル 第8回定期演奏会

1977年10月4日(火) PM 6:30

朝日生命ホール(新宿西口)

曲 目

- 打楽器五重奏……………エドワード・ミラー
- ウエイト……………近藤 謙
- 打楽器のための“情景”〔1977年度委嘱作品〕……………高原宏文
- パラ サ インターミッション……………サントス
- 8つのインベンション……………ミラスロフ・カベラック

指揮 岡田知之

演奏 国立音楽大学打楽器
アンサンブル

照明 中川健二

★チケットはジャパン・パーカッション・
センターにて前売中!!
会員割引を致します。 **¥400**

ホームレッスン はいけん

訪問先……高橋美智子先生(東京芸術大学講師)

車で押しあう首都高速道より川越街道へ。どこへ行っても車の列と雑踏。ハンドルをにぎる手も汗ばむ日である。イライラする気持をおさえ車の列から離れると、そこには静かな家々が並び、中の空地で野球をやっている子供達の姿が目につく。高橋先生のお宅に着いたのは午後4時頃。今回の取材に協力していただいた方々は、神戸市の野中美千代さんと青森県弘前市の阿部郁子さんのお2人である。野中さんは中学2年生、昨年10月から習い始めレッスンがある度、神戸から上京している。

レッスンは、バッハの「パルティータⅢ」から始まる。メロディーの歌い方、リズムの乗り方など細かい注意がとびかう。バッハが終るとゴールデン・ベルグのエチュードへ入っていく。「将来打楽器のプレーヤーになりたい……」と語る彼女。その姿を見ていると、何かしらうったえられる所があった。高橋先生も「人間的にスケールの大きな子です。将来もこのまま大きく育てほしい」と、期待をかけている。そんな会話に、にっこりとうなずいた彼女には、やはりあどけなさが残っていた。

野中さんのレッスンをじっと見つめていた阿部さんは高校3年生。いよいよ受験である。彼女も月に1度青森県から夜



行列車で上京して来る熱心な生徒さんで、「高橋先生は、何でも話せるやさしさがあり、親頼感があります」と、語ってくれた。「たいへんな努力家で、言われたこと以上のことを勉強してくる子です。もっと彼女の持っている才能をのばしてあげたい」と語るのは高橋先生。彼女のレッスンは4マレットによるコード進行と「NARD」。

かなり高度な曲集でそれを淡々とこなしていく姿は堂に入っている。2人のレッスンが終ると高橋先生は「マリンバはあくまで打楽器の一部で、リズム感覚をそなえた上にマリンバを通して歌うことを教えて行きたい」と話された。確かにメロディとリズム感覚を平行して覚えさせることは、これからの奏者にとっては必要なことである。そしてさらに「生徒1人1人が持っている個性をのばし、マリンバ(音楽)を通して楽しく教えその中にお互いのファイトが出る様にして行きたい」「リズムを考えたり細工したりしないで、その人が本能的に正しいリズムが出せるようになれば……」と語られた。私にはこやかに語りかける様に話す先生からマリンバ一筋に打ち込んで来られた、大きな姿を見つけることが出来た。持ち前の明るさと、やさしさの中からマリンバを通し、音楽性と人間性を作り上げて行くきびしさ。その2つが大ききからみ合った指導法に共鳴をおぼえた。「生徒の目が輝やいている時が一番幸せだわ……」という最後の言葉に私はうなずくだけだった。



高橋美智子マリンバ教室

生徒申込受付中!

レッスン 毎週日曜日 PM 1:00~5:00

会場 ジャパン・

パーカッション・センター

■入会金 4,000円

■月謝 5,000円

■設備費 300円

但し、JPC会員は入会金半額免除になります。



講師 高橋美智子

東京芸術大学、武蔵野音楽大学、上野学園大学講師

昭和31年 全日本吹奏楽個人コンクール優勝

■ 37年 東京芸術大学器楽科卒業

■ 39年 同大学専攻科修了

■ 48年 オランダ・ガウデアムス国際現代音楽コンクール優勝(全種目中)

■ 50年 文化庁芸術祭優秀賞をリサイタルにて受賞

日本国内での活躍の他に、ヨーロッパ各地で演奏会、テレビ、ラジオ、レコーディング、又、オーケストラ等にソリストで招かれている。またオランダの音楽大学にて特別講師として講演会、公開レッスン、演奏会なども行っている。

講師 佐長あけみ

高知県出身

武蔵野音楽大学打楽器科マリンバ専攻在学

高橋美智子、種谷駿子、西岡園子の各先生に師事、

現在、各音楽教室にて後進の指導に当たっている。

インド楽器 あれこれ



(写真はインド楽器を演奏する黒坂先生)

そもそも黒坂先生がインド楽器のとりこになったのは、東京音楽大学研究科に在学中楽器学の先生がインドからのおみやげに持ち帰った一個の楽器である。それ以来、単独で二度インドに渡り、楽器に関する見聞を広めた。

現在インドには7種類の代表的な楽器がある。それは部落がちがうとその風俗習慣によってそれぞれスタイルがかわり、リズムや奏法などの表現も異なってくる。しかしリズムの基本形は共通しており、言葉で表わすと方言に当る。北インド地方(ボンベイ→カルカッタの上)では、神をたたえる時に最も楽器を使用し、踊るそうである。そして年に一度音楽の神を祭る日があり、各地方の部落ではさかんに楽器を鳴し始めるといふ。彼等の使う楽器(太鼓)は、羊の皮を張りひもは羊の腸で作る。そして張力によって(スライド式)音が作られる。最も

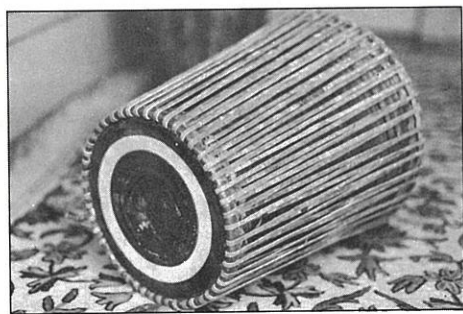
民族楽器が静かなブームを呼んでいる。

年々コンサートもさかんになり、愛好家も増え続けているという。そこで今回は、インド楽器を研究し、活躍されている黒坂昇先生にお話しをお聞きすることにした。

音が良いとされているのは、土で作られたもので、一般的なものに素焼きがある。残念ながら日本の気候には合わないらしく、皮の張り替えが最もむづかしいと言われている。また乾燥している冬が良く、一番楽器の鳴る季節だそうだ。

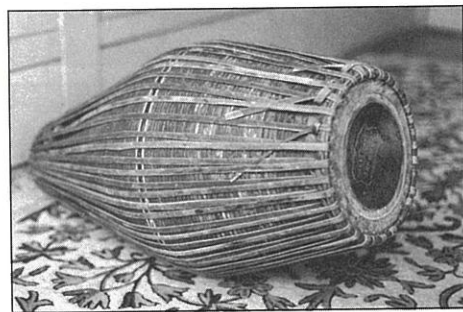
インド楽器のリズムの基本形は16拍子で(これは速くても遅くても変わらない)西洋音楽との大きな違いである。

楽器は小さくともいろいろな音が出せ、かつ神秘的な魅力を持つインド楽器。黒坂先生は、「本来の人間の生活から生まれた民族楽器は誰れでもとけこむことが出来、ブームは今後も続くでしょう」と語って下さった。私は黒坂先生との話しの中に民族楽器を見直す時代が来ていることを見つけた。貴方はどう考えますか……。



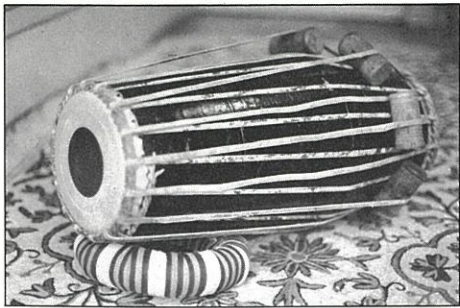
(1)マドール

素焼き皮張り。インド楽器の中では、大太鼓の役目をする。深くのびのある低音が特徴で、現在日本には1個しかないと言われている。黒坂先生が最も可愛がっている楽器の一つである。



(2)コール

素焼き皮張り。打面は高音と低音がある。ちょうど茶筒をたたいた様な音をも有し、現地では歌や踊りの伴奏用として使われている。最も音響効果のある楽器で、見た目よりも軽い。



(3)パックワジ

木胴でタブラーの前身。踊りや器楽合奏に使用される。小麦粉を水でねったものを皮に張り、その水分によって音程を作る。現在、北インド地方で見かけることができる。



(4)ドール (写真右)

木胴で首にかけて演奏する。コンガやボンゴの替りをするもので、今で言う「ライトミュージック」に使用する。

(5) (写真左)

現住民が作ったもので、素焼きの上から網の様なものでおわれている。各部落の祭りの時に使用され、現在でも昔と変わりなく使われている。



(6)タブラ (写真左) バヤ (写真右)

パックワジの半分位の大きさ。タブラは、現在の小太鼓の前身、バヤはティンパニーの前身である。2個1組で演奏することが多く、代表的なリズムを写譜すると下記ようになる。



パーカッションコンプレアで人気を集めた東南アジアの民族打楽器



-----切り取り線-----

J.P.C 会員入会申込書

№. _____

ふりがな			
氏名	生年月日	明大略	年月日生
自宅住所	㊦		
自宅電話	連絡先電話		
所属団体名 又は学校名			
自分の打楽器の先生			
所有楽器 (○印をつけて下さい)	ピアノ、電子オルガン、ステレオ、スネヤ マリンバ、パイプ、ドラムセット、 その他 ()		

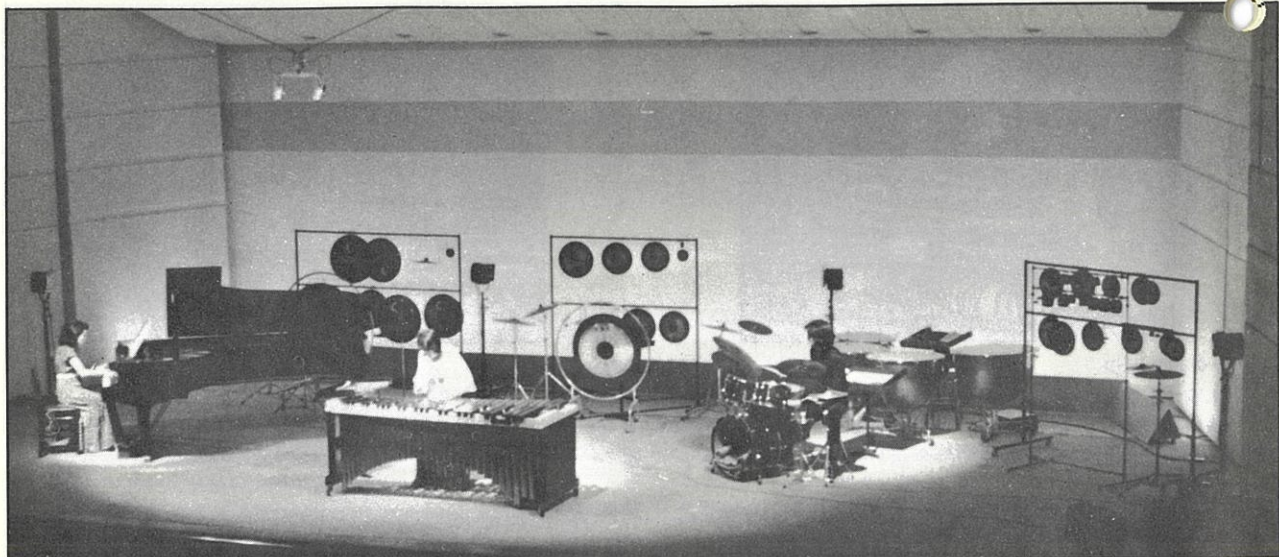
現在打楽器を使用しているジャンルを○印して下さい

ジャズ・ロック

オーケストラ・プラス

下記部分は記入しないで下さい。

受入日	会員№	カード作成	名簿記入
-----	-----	-------	------



第1回 JPCコンサート終る

去る5月11日、ABCホールにおいて、JPCコンサート「マリンバと打楽器アンサンブルの夕べ」が行なわれた。

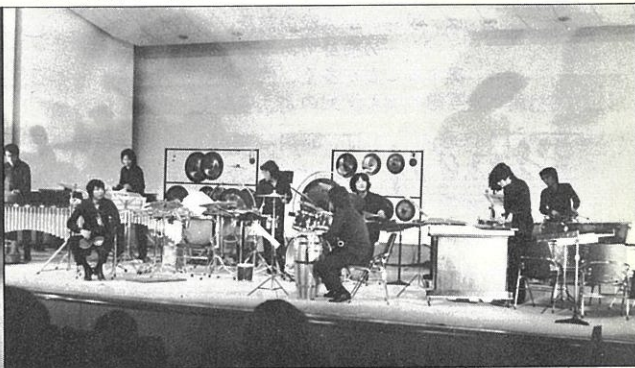
演奏とお話しに安倍圭子（マリンバ）と岡田知之打楽器合奏団を迎え、軽いステータッチで進化した。安倍、岡田両氏のお話しに、会場は楽しいムードに包まれた。

しかし楽しいムードを打ち消すかのように熱演する両氏か

らは、すばらしいきん張感が伝わった。時折聞かせるユーモラスな会話と見事なアレンジに、会場内はすっかり魅せられていた。

尚、当日開演時間に変更がありましたことを深くおわび申し上げます。

写真は熱演する安倍圭子と岡田知之打楽器合奏団



ジャパン・パーカッション・センターが
生まれかわりました。

「マレット・コーナー新設」

JPC事務局が置かれている、ジャパン・パーカッション・センターが大きく生まれかわりました。同センターは、パーカッション・プロショップとしてオープンし、数々の足跡を残して来ました。そして今回はさらに店内を充実し、新たにマレット専門コーナーを設けました。世界各国のマレットが展示され、納得のいくまでお選びいただけます。一度御覧になってはいかがでしょうか。



- マイク・バルター・マレット
- ピック・ファース・
- ソウル・グッドマン・
- マッサー
- プレミア
- ディーガン・マレット
- サトー
- リトモ
- ヤマハ他

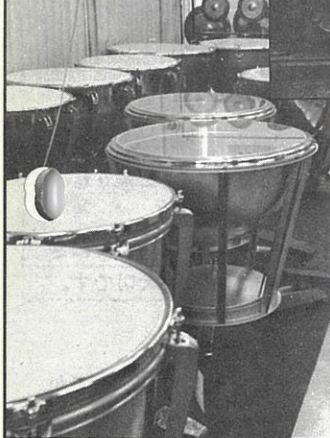
The 3RD PERCUSSION FAIR

●主催 株式会社 コマキ楽器 ●共催 シンパシフィック・センター

日本楽器製造株式会社、パール楽器製造株式会社、(株)シンパシフィック、(株)東洋楽器製作所
コータ楽器販売(株)、エフエム楽器、新中野楽器、(株)日本楽器製作所
アイダ楽器製作所、(株)エフエム楽器、(株)神田楽器 (順不同)

世界のパーカッションを 一堂に集めて 第3回パーカッション・フェア 開催される。

4月22日～24日までの3日間、後樂園ホール展示場(5F・6F)において行なわれた。同フェアはコマキ楽器が主催しているものですでに第3回を数える。今回は、ジャパン・パーカッション・センター後援のもと、ありとあらゆるパーカッションが一堂に集まった。会場も2会場と充分スペースをとり、マリンバ、ティンパニー、ラテンパーカッション、ドラムセット、民族楽器に至るまで、10,000点余りを展示し、パーカッションのコマキと名声を高めた。また各音楽大学の先生方や、プロドラマーによるクリニックにも、熱心な聴講生が詰めかけマスコミの注目を集めました。



打楽器の奏法

小太鼓の巻その(3)

塚田 靖


さて今回から「2つ打ち」について勉強して行きましょう。





小太鼓の基礎になる重要な要素は3つあります。

- (1) 1つ打ち
- (2) 飾り打ち
- (3) 2つ打ち

今までに「1つ打ち」、「飾り打ち」を勉強しましたので今回から最後の「2つ打ち」をやります。まず「2つ打ち」とはただ右手で2つ、左手で2つの音を並べせ打つだけではきれいな「2つ打ち」は出来ません。譜例(I)

きれいな「2つ打ち」が出来るようになるには譜例(II)のように、第1打の音より第2打の方を強く打つような練習する必要があります。(Open Roll)

このように一言で言えば簡単ですが、これがなかなかむずかしいのです。それではどのようにして1打目と2打目の差をつけて行くかということをお話し致しましょう。何も考えずに  と2つの音を打つと、第2打目に1回手を(腕、手首、指等)動かし、第2打目にも1回手を動かさずと思います。(ゆっくりとしたテンポ)それでは、これを少しづつ加速しながら打って下さい。


ある所まで速くすると  と打つために、2回目の手首がスムーズに動かなくなると思われます。それよりも速くして行くならば、譜例(III)のように第1打目を打面にぶつけ、そのハズミで第2打目を打つこととなります。(これは  でも同じ) さて、譜例(II)を見て下さい。(II)では  であるのが(III)では  となっています。(III)のように打っていたのでは決して美しい「ロール」にはなりません。

では(II)のように打つにはどのようにするかということが大切になって来ます。一言に言えば、「はずませる(Bounce)」+「打ち込み(Strike)」ということになります。ただこれだけのことですが、これがむずかしいのです。

まず第1打目の「はずませる」ということは、バチを上から「打ち込む」という感じではなく、「落す」感じで打ち、打面にバチ先があたった時には、指の不必要な力(バチを持つのに必要な力だけ残す)を全部ぬいてしまい、バチ先を充分上にはずませてやります。(右手も左手も同じ)次に第2打目の場合は、中指、薬指を加えて、3本の指でにぎりしめるようにして打ち込みます。つま



り第2打目の打ち込みは、指の「にぎりしめる力」によって打たれるので、「手首を動かして打つ」ではありません。左手の場合は、親指の力を利用します。ちょうど親指が、手のひらの中に向かって動くようににぎります。もちろん、同時に手首の回転運動も働いていることは言うまでもありません。「ジャンケン」を思い出して下さい。第1打目が「パー」のように指の力をぬいて開いてやり第2打目は「グー」のようににぎりしめて打ち込みます。紙面で書くと以上ようになりますが、はっきりわからない点もあると思います。一度、上手な人の演奏を聞かれるとわかると思います。さて譜例にそって勉強して行きましょう。まづ、左右別々に練習して行きます。最初は右手だけで譜例(IV)の練習をしてみてください。




注意点

- (1) 第1打、第2打共に手首を動かして打ってはいませんか。(第1打は落すように、第2打はにぎりしめて打つ)
- (2) 最初は第2打目の  をあまり気にしないで、にぎることによって打てることになることが大切です。次は左手に行きましょう。譜例(V)

注意点

- (1) 第1打目は充分に「はずみ」を利用していますか。また第2打目は「グー」を作る時のように、しっかりとにぎりしめて(親指を利用して)打ってますか。
- (2) 腕が上下運動をしてバチを動かしてしまっただけでは、いけません。第1打目を上から落したら、そのまま腕は止めておくことが大切です。

さて、左右共に上手に出来ましたら交互に練習をします。まづ譜例(VI)のようにやってみて下さい。 の後に「」を1つ入れました。

この時に、次の  のことをしっかり頭の中で考えて下さい。テンポは遅くなく、また速すぎてもうまく行きません。譜例(VI)が上手に出来るようになりましたら「」を取ってしまい、譜例(VII)のように練習して下さい。この時は、あまり後のアクセントを気にしないでかまいません。弱くならないことが大切で、後の音を必要以上に強くすることはよくありません。さて次に譜例(VIII)をやってみて下さい。「A」の部分と「B」の部分が同じように出来ますか。「A」の部分が  となったり、リズムがびっこになったりしていませんか。

(もちろん、前に書いた「2つ打ち」のためのいろいろな点を十分に注意して演奏することは、言うまでもありません。)

さて、今回は「2つ打ち」についていろいろ書きましたが、この他にもいろいろな奏法があります。今回は「Open Roll」の練習法の中の1つの方法を書いてみました。とにかく根気よく、こつこつと練習することが最も早く上達するコツです。次回はいろいろな練習用の譜例を多く書きましょう。

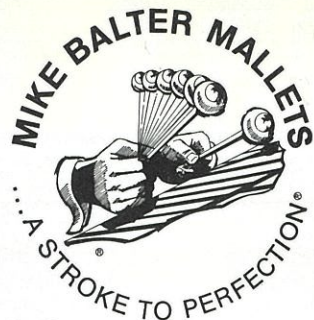
譜例

(I) (II)

(III) (IV) (V)

(VI) $\text{♩} = 140 \text{ 位}$ (VII)

(VIII) $\text{♩} = 100 \text{ 位}$ (A) (B)



世界のプロプレーヤー
絶賛!! マイク・バルター・
マレット日本初入荷

アメリカで話題をまいている、マイク・バルターマレットが入荷しました。マリンバ、ビブラフォン、シロホン等、全40種。第1次入荷分は残り少なくなりました。御了承下さい。第2次入荷分の予約を承っております。明細は、パーカッション・センターまでお問合せ下さい。

新製品、KMKマリンバ モニター募集!!

此度、コマキ楽器ではKMKマリンバを新発売することになり、'77年楽器フェアで展示します。JPC会員の中から、御希望の方に1ヶ月間、モニターとして本品を、無料にてお貸し致しますので、楽器フェア会場にて、お申込み下さい。

(詳細は、JPC事務局までお問合せ下さい)

Touch
The
Sound

楽器フェア

A会場/北の丸公園・科学技術館

B会場/九段下・ホテルグランドパレス

入場無料



10/7<金>業者内覧日

10/8<土>9<日>10<祭>

午前10時

一般公開

午後5時

世界の楽器を一堂に集めて1977年度楽器フェアが開催されます。今や西ドイツのフランクフルト・メッセ、アメリカのシカゴでの楽器ショウと並んで世界3大楽器フェアの1つにまで成長した楽器見本市です。

パーカッションに限らず、管楽器、弦楽器に至るまで幅広く展示されます。今回も日本のメーカーはもとより海外の各楽器メーカー及び楽器店も参加してさらに盛大な規模となっています。

コマキ楽器とジャパン・パーカッション・センターからはKMKドラ各時、KMK練習台、プレミアムパニー、及び新入荷のマレット各種がホテルグランドパレスのダイヤモンドルームにて展示されます。当日お越しのJPC会員の方にはJPC編集、打楽器新価格表を差し上げます。(JPCカードをお忘れなく)

科学技術館へは東西線竹橋駅、ホテル・グランドパレスへは国鉄飯田橋駅が便利です。

日本の祭り



秩父の祭り

その2

玉川大学講師 パーカッション・グループ 72 主席 永曾重光

いつしか日もとっぷりと暮れて、屋台は提灯のあかりに照らし出され、昼間よりもいっそうどっしりに見える。さき程から神楽殿の方で衣装をつけた人が出たり入ったりしている。何か始まるのかと、そちらの方へ行って録音スタンバイ。が、あい変わらず出たり入ったりしているだけで、一向に始まるようすはない。こちらがしびれを切らして、屋台の方へでも行こうか、などと言いだした頃、何の前ぶれもなく、しかもどれが始まりの音かもわからないような感じで、何気なくお神楽が始まった。この神楽は「記録保存すべき民俗文化財」として文化庁より指定を受けているそうだ。とにかくこのお神楽を録音することにしてマイクを向けていると、急に大きな太鼓の音がして、屋台ばやしが始まった。神楽がシラケムードなので、急いで屋台の方へ走る。先ずは宮地屋台のおはやしである。

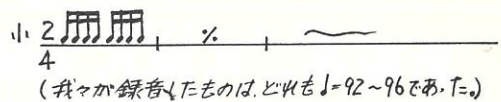
屋台の回りを一周してみたが、やっている姿はぜんぜん見えない。なんでも屋台の上の二重の襖の中でやっているのだそうだ。したがって音の方も、カドのとれた何となくにふい音である。空には三日月、マイクを持つ手にはもう感覚がない。すごい寒さとはきいていたが、なるほど寒い。おはやしの方はいつまで待っても同じ調子、一定のパターンのくり返しである。もう録るのをやめようか、などと話していると、今度は下郷笠鉦のおはやしが始まった。また走って行く。しかし、パターンは宮地屋台と全く同じ。すくなくとも我々にはそう聞こえる。しかしこちらには笛がついている。しかも我々のすぐ目の前、笠鉦の外でふいている。人をかき分けて前の方へ出てみると、どうも今度は太鼓の音が笠鉦の腹の中から聞こえる。いくら注意深く聞いても腹の中から聞こえる。首をかきげながらマイクを腹の方へ向けて、とにかく音だけは録る。あとで調べたら、笠鉦のおはやしは床下でやるのだそうだ。それから約20分、マイク片手に足ぶみをしながら頑張る。急にパターンが変わって、今までよりは少しおそめの何となくはずんだようなリズムになったかと思うと、笛のかん高い一声を最後に、おはやしは終わってしまった。

ここで、この秩父の屋台ばやしに少しふれてみよう。このおはやしは、ここ秩父の盆地で長い年月の間にできあがったもので、他の地方にはない特異なものだそうだ。楽器の編成は大胴（大太鼓、直径57cmくらい。バチは長さ約39cm、元口約

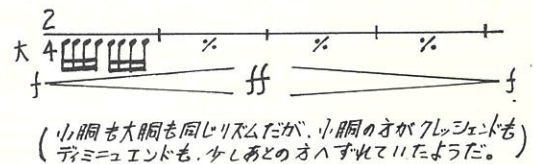
5cm、末口約4cm）1丁、小胴（締太鼓、バチは長さ38cmくらい、元口2.5cm、末口2cm、檜材）3~4丁、笛（篠づくりの横笛、七穴）1本、鉦（摺り鉦、直径17cmくらい）1丁である。リズムは、僕の感じたところでは小胴の軽快なリズム（譜例1）が中心となり、それに小胴がアドリブ風に打ち込む。笛はいくつかのモチーフ（それぞれに名前がついており、太鼓の方にもそれに対応する音型がある）のくり返し、鉦は小胴のリズムと同型で、適宜チャリを摺り込む、といったところだ。そして、一番印象的なのはやはり小胴のリズムで、何げなく聞いていると、 ㊦ ㊦ という形に聞こえる。しかしながらよく聞くとやはり ㊦ ㊦ として書くならば ㊦ とでもなるだろうか。とにかく我々洋楽をやっている者にとっては不思議なリズムである。どこか八丈太鼓とも似通っており。もっと分かりやすく言うならば、阿波踊りのはやしから、あのはやしのような感じを取ったものとも言えは良いだろうか。尚もっとくわしく知りたい方は、浅見清一郎著「秩父祭と民間信仰」一有峰書店 歴史と風土③-1に、譜例と一緒にくわしく解説されている。以下にその譜例よりいくつか引用させていただきます。

(1) 小胴のリズム

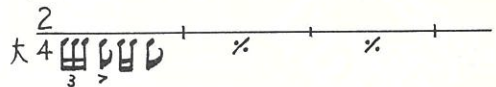
$\text{♩} = 60 \sim 80$



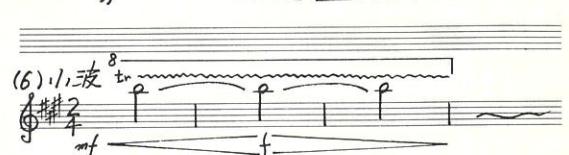
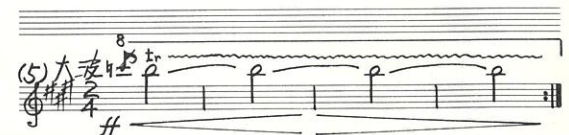
(2) 大鼓



(3) 小鼓



(4) ほほ全体に流れてくる笛の旋律



浅見清一郎「秩父祭と民間信仰」より

※尚、前回文中の宮地屋台を宮地屋台と訂正させていただきます。おわび申し上げます。



ダイナミックな演奏と、精練されたアンサンブルで話題をまいたシカゴ交響楽団の打楽器奏者、アル・ペyson氏と同夫人による公開クリニックが、ジャパン・パーカッション・センターで行なわれた。これはJPCが、米国ラディック社とコマキ楽器の後援で行なったもので当日は雨にもかかわらず定員30名のところ、50名余りの熱心な会員が詰めかけた。

お話しに、東京芸術大学助教授、有賀誠門先生を迎え、小物楽器からありとあらゆる楽器の解説、奏法を公開した。会員の中から飛び出す多くの質問にも親切に答え、ペyson氏の人柄が現われるクリニックだった。最後に会員の熱心な声援に答え、ペyson夫人もマリimbaを演奏した。夫人の演奏するメロディに乗ってペyson氏がボンゴを合わせるなど意気の合ったところを披露し、会場内も楽しい雰囲気包まれたまま閉会となった。

話題をまいたJPC会員のための2つのクリニック!!

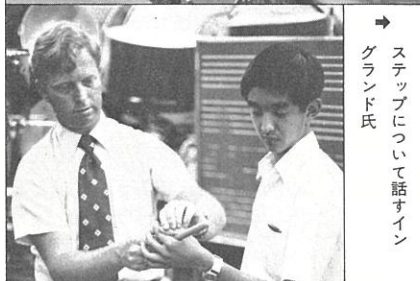


ペyson氏御自慢のタンバリン。回りの黒い所は、サンドペーパーが張ってある。

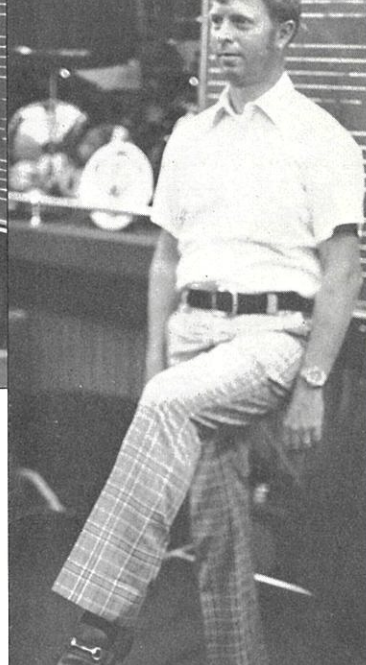
もう1つは、アメリカのマーチングバンド指導者、ウィルバーイングランド氏を招いての公開クリニック。(財)日本国民音楽振興財団とコマキ楽器の後援で、JPCが主催したもの。打楽器の奏法やアンサンブル、ステップに至るまでの話しが続いた。

時折見せる、ユーモラスなアドリブに会場内はすっかり魅せられたようだった。

会員と共にステップをふみ、常に一体となって話すイングランド氏には、さすがアメリカ本場の指導者という感じを強く受けた。熱心に聞き入る会員の中でもメモを取る姿が見られ、アメリカマーチングの基礎を新ためて認識していた。



→ ステップについて話すイングランド氏



読者の声

ジャズブームを見る

今、若者の間で静かなブームを呼んでいる一つにジャズがある。一口にジャズと言ってもその範囲は広い。一般にコンボに始まり、フルバンドまで多種多様である。先日コマキ楽器主催のパーカッションフェアのジョージ川口のクリニックを見ておどろいた。どこを見ても人々……。

ここまで興味を引くジャズの魅力とはいったい何んだらうか。家に帰り一人ステレオに耳をかたむける人。ジャズ喫茶に行きムードと共に楽しむ人。お酒を飲みながらビートに酔う人も少なくはないでしょう。

そこである人に「ジャズの魅力は何ですか」と聞いたところ「あの黒人が打ち出すエネルギーがビートとパワーでしよう」と答えてくれた。私は「なるほど」と自分自身納得せざるをえなかった。それじゃ黒人の持つ音楽が全てかと言うとそうでもない。

現に白人ジャズ最盛期というのがある。黒人音楽をベースとし、その中に自分達のジャズ音楽を組み立てていく。もちろん一口にジャズ、クラシック(広い意味での音楽)の良否は簡単に決められるものではない。それぞれ好みや感じ方がある。お酒じやないが、楽しい時、悲しい時、いつしか聞き入ってしまうのがジャズだろう。以前私もバンドに入ってプレイしたことを思い出した。ジョーダン・バンドの大アドリブ大会である。各自が自由にアドリブを楽しみ、リズムに乗りビートに酔う。無我夢中でプレイしたことをお忘れられない。皆さんは、ジャズブームをどう考えますか……。

コマキ楽器ニュース

英国プレミア・ティンパニー限定入荷!!

No.820 (銅製25、28吋ゲージ付) ¥790,000
No.810 (F.G.25、28吋ゲージ付) ¥570,000



大変お待たせいたしました。第一回目の入荷後しばらく入荷が遅れていた、プレミアアティンパニーの第二陣が9月いよいよ入荷致します。前回の入荷分が大好評のうち、たちまち売切れ。今回

分もすでに数点の予約を頂いております。購入計画をおもちの団体は大至急御一報下さい。

オーケストラの方々には特にダイナミックなプレミアアティンパニーを、お推め致します。

JPC事務局からのお知らせ

'77年もあと4ヶ月足らずとなりました。

JPCも数々の足跡を残し、会員も1,800名を数えるに至りました。つきまして、今年度(52年)JPC会費未納の方がおられるようです。会員の方で今年度会費未納の方はお手数ですが、同封の振込用紙にてお振込み下さい。(1,000円)(JPC事務局まで御持参されてもけっこうです。)

詳細は山田までお問合せ下さい。

コマキ楽器・特殊打楽器入荷ご案内

品名	メーカー名	番号	規格	価格
グロックン	プレミア	570	2 1/2オクターブG-C	78,000
"	ディーガン	1560	A=442、G-C	180,000
アンテックシンバル	Aジルシヤン		C-C1オクターブ各1枚セット	130,000
ビブラホン	プレミア	751	3オクターブF-F	568,000
テンパニー	ラデック	880	プロフェッショナルモデル26、29吋	752,000
"	"	1894	4点セットユニバーサルモデルF G2326、29、32	732,000
"	"	1892	2点セットユニバーサルモデル26、29、FG	362,000
"	プレミア	820	銅製25吋、28吋ゲージ付	790,000
"	"	810	F.G.25吋、28吋	570,000
コンサートバスドラム	"	808P	18×40吋マホガニー仕上	220,000
"	"	806P	16×36吋	173,000
"	"	804P	16×32吋	152,000
オーケストラチャイム	"	865	C 5-F 6 1 1/2	640,000
"	マッサー	M 665	C 5-G 6 1 1/2	960,000
スネヤドラム	"	400	5×14吋金銅サブラホニック	66,000
"	"	410	5×14吋金銅スーパーセンシティブ	101,000
スネヤピッコロ	"	411	6 1/2×14スーパーセンシティブ	103,000
ビスネヤ	"	405	3×13ピッコロ	61,000
"	プレミア	31M	5 1/2×14吋木銅セル張	55,000
"	"	2000	5 1/2×14吋金銅	78,000
"	グレッチ	4157	5 1/2×14吋Pearl	70,000
パレードドラム	ラデック	590	12×15吋テナー	100,000
"	プレミア	S 81	12"×14"木銅セル張	95,000
"	"	S 80	" 金銅	115,000
"	"	S 40	" "	107,000
バスドラムスタンド回転式	"	789	SUSPENDED STAND 36吋40吋用	129,000
銅 羅	KMK		36吋	300,000
"	"		32吋	200,000
"	"		28吋	150,000
"	"		21吋	85,000

◆JPC すいせんコンサート◆

第4回 岡田 知之打楽器合奏団演奏会

邦人作品の夕べ(Ⅲ)

日時 '77.11月14日(月) 開演6:30PM

会場 石橋メモリアルホール(上野学園大学)

入場料 学生1,500円 一般2,000円 (各全席自由)

尚、JPC会員のみ1,200円となります。

会員チケットはJPC事務局にて、取扱い致します。問合せは山田まで。

◎パーカッショングループ'72 第7回定期演奏会「ジョン・ケージ」特集

お話し 金本正武

会場 文化会館小ホール

日時 10月6日(木) 開演7:00PM

入場料 2,000円 (全席自由)

◎'77年 東京都吹奏楽コンクール大会

会場 普門館

日時 10月2日(日) 開演9:00PM

入場料 前売800円 当日1,000円

◎グループ3 マリンバ

第4回リサイタル

菅原 淳・岡田真理子・種谷睦子

会場 東京第一生命ホール

日時 10月31日(月) 開演6:30P

会場 大阪厚生年金会館中ホール

日時 11月5日(土) 開演6:30PM

入場料 各1,500円

編集後記

海に山にと楽しい夏を過ごされた方も多いと思います。キラキラと輝く太陽をいっぱい受けて、青い海へ飛び出そうと計画したまでは良かったが、とうとう実現はしませんでした。来年こそ...。と思っている私です。八月も半ばを過ぎると過ごしやすく、いよいよよものさみしい秋がやって来ます。芸術に、スポーツに、食欲に、そしてちよびり大人の恋に...。来年受験をひかえている人にとっては、そろそろ大づめですね。どんなに勉強しても心のゆとりはほしいものです。天気の良い日でも、ふらっと外へ出てみたらいかげんしょうか。きっと気持ちが晴れますよ。

そんなことを言っている私にも、この第三号の切日があったのです。しかし結果は、ご覧のとうり遅くなってしまうました。深く深く反省しております。

昭和52年9月1日発行
発行所

J.P.C.事務局

〒山 東京都台東区西浅草1-7-1

(武蔵ビル2F)

TEL 03-845-3041(代)

振替口座 9-1153115

発行人 山田正俊